

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 防府あかり園		
所在地	山口県防府市大字台道1681番地		
電話番号	0835-33-0800	事業所番号	3570600555
法人名	社会福祉法人 博愛会		

訪問調査日	平成 21 年 4 月 13 日	評価確定日	平成 21 年 7 月 9 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤 11 人 非常勤 5 人 (常勤換算 11.7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄金コンクリート 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,327 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	13,423 円		
	内訳	光熱水費 333円/日、日常生活費 100円/日		

### (4) 利用者の概要 (3月28日現在)

利用者数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
	要介護 1	3	要介護 4
	要介護 2	9	要介護 5
	要介護 3	6	要支援 2
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 防府リハビリテーション病院
	歯科 防府リハビリテーション病院

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

家庭的な雰囲気、その人らしくゆったりと暮らしていけるように支援しておられます。年2回家族懇親会を開催し、家族との連携を図りながら、サービスの質を向上させておられます。また、利用者の健康管理に留意され、隣接の法人の医療施設との連携や外部医療機関への早期受診を支援され、家族に報告しておられます。

### (特徴的な取組等)

利用者の日々の様子やケアの状況を「個人記録」に刻銘に記載し、職員が共有されています。時間的な経過記録から夜間の水分補給の必要性を確認し、夜間もポットを居室に用意して、利用者が自由に飲めるように配慮するなど、一人ひとりのケアを大切にされた記録を活かした取り組みをしておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

職員会議で検討し、改善に取り組まれています。地域密着型サービスとしての理念を追加され、市とは、運営推進会議以外でも相談の機会を多く持たれています。救急処置等の定期的訓練は、職員会議でマニュアルに基づいた勉強会を開催されています。

### (今回の自己評価の取組状況)

計画作成担当者が聞き取りを行い、まとめたものを管理者に報告して、出来上がった自己評価書は、職員に回覧し周知徹底しておられます。

### (運営推進会議の取組状況)

年2回開催し、メンバーは、民生委員、市職員(介護保険課、地域包括支援センター)、利用者代表、家族代表、法人の施設長、事務長、職員で、状況報告や外部評価報告、意見交換を行ない、サービスに活かすよう取り組まれています。

### (家族との連携状況)

年4回発行の「つる、かめだより」に、担当者のコメントを記入し、便りのない月(年8回)は、金銭明細書に近況報告を添えて送付されています。面会時や電話等で、暮らしぶりや健康状態などを報告し、要望等を聞かれています。年2回家族懇親会を開催し連携を深められています。

### (地域との連携状況)

地域の祭りやどんど焼き等の地域行事に参加し、神社の獅子舞の来訪や高校の吹奏楽部の訪問、散歩や買い物などで、地域の人と交流しています。神社の清掃、草取り、溝掃除は職員が参加されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての理念を全職員で検討し、「住み慣れた地域の中で、馴染みの人と共に支えあうことができるケアを目指します」という理念をつくりあげている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示し、職員会議等で理念について話し合い、共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の祭りやどんど焼き等の地域行事に参加し、神社の獅子舞の来訪や高校生の訪問、散歩や買い物などで地域の人と交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、計画作成担当者が聞き取りを行い、まとめたものを管理者に報告し、職員に回覧し周知徹底している。外部評価は職員に速やかに伝え、職員会議等で検討している。	・自己評価の全職員でも取り組み
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	年2回開催し、メンバーは、民生委員、市職員、利用者代表、家族代表、法人の施設長、事務長、職員で、状況報告や外部評価報告、意見交換を行ない、サービスに活かしている。地域のメンバーは民生委員のみである。	・開催回数の検討 ・メンバーの拡大(自治会、駐在所等)
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター等の窓口に出向いて、サービス体制の確認や相談をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回発行のホーム便りや金銭明細書に近況報告を添えて送付したり、家族懇親会、面会時、電話などで、暮らしぶりや健康状態、職員の異動等を報告し、要望等を聞いている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。第三者委員は選任しているが、明示はされていない。	・第三者委員の明示
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤11名、非常勤5名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整したり、各ユニット間や特養からの応援体制を整備している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は本人の希望以外は今のところない。異動の場合は、引き継ぎ期間を1週間～約1ヶ月間設けて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修や内部研修を勤務の一環として提供している。研修は職員会議で復命している。リーダーは、働きながらのトレーニングを心がけている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や福祉関係の研修会に参加したり、ブロックでの勉強会をとおして、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に本人と家族に施設見学をしてもらい、利用者や職員と一緒にお茶を飲みながら馴染みの関係づくりをしている。家族と相談しながら、職員が家庭訪問をしてケアに活かしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者の生きる力を支えつつ、一緒に過ごすことを大切に楽しい暮らしを構築している。職員は、調理や野菜の作り方などを利用者から学んでいる。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式を活用してアセスメントを行い、日々のかかわりの中で、利用者の言葉やありのままの姿を個人記録に記入し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から情報を得ている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>その都度、計画作成担当者と担当者が、介護計画の素案を作成し、カンファレンスに家族が参加して話し合い、利用者や家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月毎に見直しをしている。状態に変化が生じた場合は、関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療機関への送迎や付き添い、買い物、ドライブ、墓参り、温泉等の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を確認しているが、家族の希望により、隣接の協力医療機関がかかりつけ医になっており、24時間対応で適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族に報告している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けては、早い段階から医師や家族と話し合っ て対応している。家族は、医療依存度の高い場合は入院となること を合意している。全職員も方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ホーム内研修でプライバシー保護について学び、自尊心を傷つけない言葉かけや対応をしている。記録物は個人情報の取り扱いに注意し、保管庫に収めている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間も自由で、利用者の気持ちや一人ひとりのペースを大切にしている。ホームの1日の流れは大まかに決めているが、希望やその日の体調を考慮しながら支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、利用者の好みや要望に合わせて献立を作り、配膳、後片付けなども出来る人が手伝っている。職員は同じテーブルで同じものを食べながら、食事を楽めるよう支援している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している。	入浴は毎日13時から17時まで可能であり、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくり楽めるよう支援している。入浴を嫌がる場合には、清拭、シャワー浴、足浴等工夫しながら支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出行事やカルタ、絵、キーボードなどの楽しみごとや、配膳、洗濯物干し等の活躍できる場面づくりをしている。配膳は1人が参加されている。慣れ親しんだ場面で活躍できそうな人もおられる様子だが、全体的に受け身で過ごされている。	・活躍できる場面づくりの工夫
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブなど、利用者本位の外出支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵の弊害を正しく理解しており、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら、職員が見守りながら同伴している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「転倒防止」研修に参加したり、「ヒヤリはっと」ノートや事故報告書に記載し、看護師の指導を受けている。個別の対応は、介護計画に反映させて事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生時に備えて、看護師による救急救命研修を受けたり、法人のマニュアルを基に、初期対応の学習を定期的に行って事故防止に取り組んでいる。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年4回、併設の特養と合同で、昼夜間を想定した消火・避難訓練を実施している。地域住民の協力を得られるよう運営推進会議等で働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、服薬は手渡して服用を確認し、変化が生じた場合は医師に相談している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の歯磨きを支援し、入歯の状態をチェックしたり、口腔内粘膜の状態を観察し、歯ブラシや義歯は定期的に洗浄し、清潔保持に努めている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の管理栄養士の助言を受けて、献立表の点検、栄養バランス、水分の摂取状況に配慮している。水分摂取量の少ない人は、夜間の水分確保にも努めている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	協力医療機関の指導や感染症マニュアルに従って、手洗い、うがいの励行、日に3回のトイレ消毒、インフルエンザ予防接種など、職員一丸となって感染症予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は日当たりのよい明るい場所にあり、季節ごとの飾りや花が飾られて利用者の憩いの場となっている。浴室、トイレも事故防止に配慮されている。換気、湿度管理もこまめに実施されている。トイレは一日に3回清掃され、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、各個人の個性を生かした、その人らしい部屋のつくりになっている。鏡台、整理筆筒、本立て、本、写真、手芸品などの作品も壁に飾られている。日当たりもよく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム防府あかり園
所在地	山口県防府市大字台道1681番地
電話番号	0835-33-0800
開設年月日	平成14年12月1日

## 【実施ユニットの概要】 (3月28日現在)

ユニットの名称	かめ家		
ユニットの定員	9名		
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名
	要介護1	2	要介護4
	要介護2	3	要介護5
	要介護3	4	要支援2
年齢構成	平均 87.7歳	最低 77歳	最高 95歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	計画作成担当者を中心に、職員全員で各項目別に自己評価を行う。その後、管理者が、各項目をチェックする。特に、運営に関する事や人材育成に関する事 地域との交流に関しては、補足する。自己評価後、全員で回覧し現状の認識と今後取り組むべき課題を検討する予定。また、外部評価後に、評価委員の方の意見や助言を参考に、今後の取り組みを具体的に検討していきたい。
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

入居されている一人一人の方の生活習慣や生きてこられた時代の文化や価値観等を大切に、その人らしさを失う事のないようまた、人としての尊厳を保つことができるよう支援していきたいと考えています。そのため、センター方式を導入し、個々の入居者の方のアセスメントを強化しその方を知ること、その人らしさとはなにか考えながら、入居者やご家族のニーズの把握に努め、介護計画に反映させております。ご家族に対しては、常に情報を提供し、入居後も良い関係が継続できるように支援しております。年に数回ご家族の方にも参加していただける行事を計画したり、ケアカンファレンスに参加頂いております。同一敷地内に、関連の病院があり、入居者の健康管理に努めています。また、緊急時に備え、夜間でもすぐ医療機関に掛かれるよう連携体制を強化しています。その他、できるだけ地域の方と触れ合う機会を持つために、地区の行事に参加させていただいたり、買い物や行楽など、意識的に出かけるように努めています。最近では、閉鎖的にならないようボランティアの方にも協力いただき、話し相手になっていただいたり、レクリエーション活動にも幅がでてきたように思います。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>理念を、よりわかりやすい言葉に置き換えイメージしやすくする。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>理念を具現化できるように、地域とどのように関わって行けばよいのかその方法を考え取り組む。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>理念を掲示して、意識できるようにする。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>常に、サービスの質の向上が図れるように、課題を明確にしていく。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>地域に対しては、さらに多様な機会を捉えて事業所の理念や役割を伝えていきたい。運営推進会議のメンバーもいろいろな立場の方に加わってもらえるようにする。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>近所の方が、立ち寄りやすいようホーム内で茶話会などを開いたり、一緒に過ごす機会を持つようにしたい。</p>
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域マップを活用し、地域の各機関や商店など活用できる資源を開拓していきたい。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>認知症介護講座を開催した。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		理念に沿った行動が出来るように、職員の資質の向上を図る。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		サービス評価の結果を踏まえ、改善経過のモニター役になってもらうことを検討したい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		ホームの行事などにも、参加の案内をして一緒に過ごしていただく機会を持ちたい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		今後、職員全員で制度や事業の内容を理解できるよう勉強会を行っていきたい
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		職員間で、お互いそのようなことが起こらないように、チームでサポートしあっている。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		身元引き受け人だけでなく、必要に応じて、他の家族にも説明している
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		職員間で入居者の情報交換を行い、個別のニーズに出来るだけ対応するようにしている。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		近況報告も、必要に応じ身元引き受けだけでなく、他のご家族にも発送している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		家族から、今のところ特に記録物の開示の要請はないが、契約時にいつでも要請があれば見ていただけることを説明している。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		苦情申し立て機関についても、家族に説明している。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		職員の提案や意見に基づき、勤務シフトなども検討した
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		行事の折などは、勤務者を多めにしたり柔軟に対応している
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		担当が変わる際には、引継ぎ機関を設けるようにしている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		パート職員に対する研修を強化していきたい
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		職員間で、自分の得意なことは、積極的に取り組んでもらう。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		学習会に、順次職員を派遣している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		勤務時間の中に、たとえ短時間でも仕事を離れりフレッシュできる時間を意識的につくっていきたい
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		運営者も、必要に応じて個別に職員と仕事上の悩みや家庭の状況、健康状態など面談し把握するようにしている
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		有資格者に対し、何らかの評価を検討する
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		在宅から入居される方は、家庭訪問し、生活の様子や、家族との関係を把握するようにしている。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		複数の家族の話を聞き、それぞれの家族の立場や、本人との関係性を把握する。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		様々な機関と連携し、情報収集に努める
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入居後は、家族や知人など本人にかかわりのある人に、面会に来ていただき、安心してもらえるようにしている。
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		入居者が自分の力を発揮しながら、生活の知恵や文化を継続できるようなかかわりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p><b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		家族がなかなか面会に来られない場合は、電話や手紙でやり取りしている
34	<p><b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		家族が、宿泊を希望される場合はホームに泊まって頂けるよう検討したい。
35	<p><b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		地域のなかで、本人にとって馴染みの人や場所を把握していきたい
36	<p><b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		認知症が進み、人と上手く関係がもてない人には、職員が仲介しながら、他の入居者とかかわりが持てるように支援している。
37	<p><b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		本人の状態が改善され、再入居の希望がある場合は、優先的に受け入れていきたい
垂			
38 (15)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		家族からも、いろいろ情報を得ながら、在宅で生活していたときの様子を聞き、ケアに活かしていく
39	<p><b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		センター方式を活用し、家族にも分るところは記入をお願いしている。
40	<p><b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		できないことよりできることを見つけ、アプローチするようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族と話し合いながら、その人らしく暮らしていくことが出来るよう、気づき・意見・要望を反映した介護計画を作成している。必要に応じて、職員会議の折などに、お互いの把握しているアセスメントをもとに意見交換を行いながら、ケアを検討している	職員全員が、意見やアイデアを出し、本人が心地よく暮らすことが出来るためにはどうしたらよいか話し合っている。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年に1回は、前回のプランの評価をしたうえで、定期的にケアプランの見直しを行っている。本人の状態の変化や、新たな要望や課題が発生した場合、見直しを行い、現状に即したプランを作成するようにしている	状態に即して、暫定プランを作成し、家族にも説明した上で、変更している。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に、日々の様子や気づき、プランの取り組みなど記載している。また、食事や水分の摂取状況、排泄や入浴等の状況を記録し、すべての職員が勤務開始前には目を通し情報を共有するようにしている。また、介護計画の見直しに活かすようにしている	情報を、共有するために、連絡帳を活用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療体制加算は取っていないが、24時間何かあればすぐ医療との連携がとれるようにしている。受診や通院の介助も支援している。	今後、地域の認知症の方が利用できるようなデイサービスの機能を検討する
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の様々な資源を把握し、活用できるものは活用している。ボランティアの方にも定期的に来て頂いている	さらに、多様なボランティアの導入を図り、地域交流につなげて行きたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の方の見学や、相談には随時対応している。実習生の受け入れもおこなっている。	地域の方を対象に、認知症介護講座を開催した
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理美容のサービスが受けられるように、月一回業者の方に来てもらっている。	地域の公民館などで行っている活動で、参加できるものがあれば検討したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域運営推進会議に包括支援センターの職員にも、参加を呼びかけたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		家族に、入所される前に受診していた医療機関に引き続きかかって頂いてもよい旨説明しているが、通院の事や緊急時の対応のことがあり、殆どの方が事業所の協力医療機関に替わられている
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		認知症の重度化に伴い、内科医では対応できないケースもあり、認知症に対応できる医療機関との連携を強化していきたい
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		協力医療機関とは、事業所の運営についてさらに理解を深めていただけるよう、話し合っ行ってきたい。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		入院後も、たびたび様子を見に行き、本人の状態を確認している。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後、見取り介護が出来るよう、夜間の人員の配置や環境の整備、職員の技術や知識の向上にも取り組んでいく必要がある。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		見取り介護に取り組むには、医療機関との連携体制を見直し、医師の往診や、訪問看護ステーションの活用による看護職員の確保など検討していく必要がある。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		情報提供書を作成し、移り先に渡している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者の尊厳を損ねる事の無いよう、会議や研修の折に職員に対して意識付けを行っている。場面に応じた適切な言葉かけやかかわり方に気をつけている。また、守秘義務の徹底や、記録物の保管についても気をつけている</p>	<p>言葉遣いについては、今一度気をつけていくように再確認をする。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけ、本人の意思を尊重するために、本人にわかりやすいよう説明したり、些細な場面を捉え自己選択・自己決定の促しをしたり、言葉による意思表示の難しい入居者は、表情や態度で本人の意向を理解するようにしている</p>	<p>入居者それぞれの状態に合わせた働きかけ、言葉かけに心がける。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできることできないことを把握し、できることは本人にしてもらうようにしている。できないことも、職員の関わり方や工夫でできることは無いかが検討しながら入居者の隠れた力を引き出すよう支援している</p>	<p>職員が管理しすぎないように、本人のやりたいことを優先し、本人のやり方を尊重しながらかかわる。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>決まった日課は無く、一人一人のその日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、できるだけ柔軟に対応するようにしているが、職員の出勤者の人数が少ない日や、受診介助のある日は、業務を優先しがちとなり易い。</p>	<p>職員の出勤者の人数に合わせ、その日の業務内容を検討する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装は、できるだけ自分で選んでもらうようにしており、身だしなみが整えられるようさりげなく支援している。理美容は、家族が行きつけの美容院に連れて行かれる方、月に1回の業者による散髪日を利用される方がある。髪型は本人の好みにより、自由に選択できる。</p>	<p>本人の、服や帽子などを購入する際は、本人と一緒に出かけ、本人に選んでもらう</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の献立は、入居者の好みや苦手なものを考慮して職員が立てている。調理や後片付けなど、入居者と一緒に行い、職員も同じものを食べている。野菜なども自分たちで作ったものも取り入れるようにしている。</p>	<p>本人の誕生日には、本人の食べたい物を献立にいれている。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲み物は、常時何種類か準備し、その時に飲みたいものが飲めるよう準備している。おやつも事業所から提供する物の他、自分の好きなものを購入して食べることが出来るよう支援している。お酒は、特に要求される方が無いので、行事の折などに提供している</p>	<p>糖尿病のある方も、カロリーに気をつけながらできるだけ、他の入居者と喫茶の時間を楽しんでもらっている。</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々人の排泄パターンや排泄の習慣などを把握し、できるだけトイレでの排泄を促している。失敗した場合も、自尊心を傷つけないようにさりげなく周囲に気づかれないよう対応している。</p>	<p>紙パンツやパットも、その人に合ったものを用意し、不快感をなくすようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に、毎日入浴できるようにしているが、時間帯が午後2時過ぎから5時ごろまでで、夜間入浴は実施していない。		安眠を促すためにも、希望者があれば夜間入浴に取り組みたい
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個々の入居者の体調や希望など考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。寝つけない時には、あたたかい飲みもの出したり、眠くなるまで話し相手になったりして過ごしてもらっている		昼間でも、横になりたいときは、ソファなどで横になれるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活習慣や本人の能力や希望を踏まえて、入居者の楽しみや役割を作っていくように、職員がかかわりをもっている。お願いできそうな仕事をしていただいたときは、感謝の言葉を伝えるようにしている。		本年度は、お菓子づくりを取り入れ、好評であった。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣いを所持することを希望される方は、自分で小額の現金を所持してもらっており、職員も把握している。買い物の折、自分で支払う事の出来る方は職員が支払うのではなく、本人に任せて見守っている。		お金を持っていることで、安心される方もいるので小額でも継続して自己管理ができるよう支援していきたい。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調や希望に沿って、散歩や日光浴、畑の水やりや売店への買い物等戸外で過ごすことが出来るよう支援している。また、ドライブや外食などの機会もつくっている。		いつでも、出たいときに、出られる引き止めない介護を目指したい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者が、テレビや新聞などをみて、興味を持った所などでかけている。ただ、あまり遠くには出かけていない。		普段行けない所への外出は、家族にも協力を呼びかけ一緒に出かける機会を持ちたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いは、支援しながら入居者に書いていただいている。入居者の希望に応じて、いつでも電話や手紙を出せるよう、また家族から電話がががっても、家族と話が出来るようにしている。		家族から手紙が来たときは、本人が読めない場合は内容を、読んで伝えている。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が気軽に来ていただけるような雰囲気作りに心がけている。本人と会話が弾むように、職員がさりげなく間を取持つようにしている。		面会時間に関係なく、いつでも面会可能。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在は、ご家族の方からの希望は無いが、居室に宿泊していただくことは可能である。		食事や入浴の利用など含めて、宿泊していただけるよう検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	現在、納涼会や、盆踊り花火大会、昼食会など家族の方に参加を呼びかけている。		家族の方が参加しやすいように、曜日や時間帯、行事の内容等も検討していきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について内部研修を行い、職員が共通認識を持つよう取り組んでいる。管理者や計画作成担当が、日常的にそのような言動が無いが注意を払っている。		出来るだけ、行動を制限しないよう、転倒の危険性がある入居者は、職員が見守りつきそう。
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	原則、夜間の戸締り以外はかけないようにしている。入居者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒について行く等の見守りを行いながら対応している。		職員の都合により制限しないで、出来るだけ本人の出たいときに出来るよう支援したい。
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、事務所に閉じこもることが無いよう、常に入居者の様子が把握できるように、記録なども同じ空間で行うようにしている。夜間は、こまめに入居者の様子を確認し、起きてこられただけで対応できるように心がけている。		日中は、職員がお互い声をかけあって、見守るようにしている。
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一律に取り除くのではなく、入居者の状況により、嚴重に管理するもの、保管管理の必要なもの、使用時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		一人一人の状態を、常に把握するように努める。
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者一人一人の状態から予測される危険を検討し、介護サービス計画に取り上げ、事故防止に取り組んでいる。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共通認識を図っている。事故発生時には、報告書を作成し、事故の原因と今後の予防策について検討し、家族にも説明と報告を行っている。		ヒヤリハットや、事故の報告書を活用し、事故の再発を防ぐ。またリスクマネジメントの研修が必要
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応や応急手当など、マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行われていない。現在、何かあれば協力医療機関に連絡し、支持を仰ぎ対応するようにしている。		全員が訓練できるよう、日を分けて取り組みたい。
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	些細なことであっても、事故報告書やヒヤリハット報告書にあげ職員会議で取り上げながら、事故の再発の防止に職員が意識をもって取り組むようにしている。		職員一人一人が、危険が予測できるように意識付けを行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の特養と一緒に避難訓練を行っている。入居者も、職員の誘導で実際に訓練に参加してもらっている。		地域住民や、消防署、警察署との連携を図って行きたい。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	一人一人に起こりうるリスクについて把握し、必要に応じてケアプランにも取り上げ、家族に対応策について説明している。また、経過観察しながら、対応策を検討している。		家族に面会時など折に触れ状態を報告し、リスクと対応について話をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は、定期的なバイタルチェック等により日頃の状態を把握している。少しでも体調や様子に変化が見られたときは、バイタルチェックを行い記録をとりながら経過観察し、職員間で情報を共有するようにしている。状況により受診している。		一人一人の持病やアレルギーの把握に努めている。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は、薬の処方箋をいつでも見ることが出来るようファイルを作成している。服薬時は、一人一人きちんと服用できているか確認している。薬が変処方された時は、こまめに観察し、状態変化が見られるときは、主治医に報告している。		薬の処方や用量が変更されても、誤薬がないよう、職員間で常に情報を共有している。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食物繊維の多い食材や、乳製品を取り入れている。散歩や身体を動かす機会を意識的につくりながら、できるだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。		排泄の有無、状態等の把握に努め、どうしても排便の無いときは、医師とも連携をとりながら、薬の投与を行いコントロールしている。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	入居者全員の口腔ケアを介護計画に取り上げ、本人の状況に応じて、口腔ケアを行っている。また、必要に応じて歯科受診をして歯の治療を行ったり、歯垢を取り除いてもらったり義歯の調整を行ってもらっている。		歯磨きは、全員毎食後実施。夕食後は、義歯の洗浄を行う。歯磨きの用具もや保管などもそれぞれの状態に合わせて行う。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の栄養摂取量や水分摂取量をだまかに把握し、摂取量の少ない場合は、チェック表をつけ受診の際に報告している。献立は、入居者の嗜好を把握しながら栄養バランスにも配慮している。時々栄養士のアドバイスを貰うようにしている。		飲み込みの悪い人は、食べ易いように調理を工夫している。時に捕食を補う。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	各種マニュアルを完備し、職員会議の折に勉強会を行っている。年間を通じ、手洗いやうがい、トイレ等の消毒を行い予防に努めている。また、家族に同意をいただき、入居者と職員は、インフルエンザの予防接種を受けている。		感染症が発生した場合、すぐ対応できるように必要物品を、常に準備している。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や台所の衛生管理については、職員間で取り決め実施している。食品の保存は、種類により場所を設け、虫害対策もおこなっている。調理の前には、必ず手洗いをし、清潔な手で調理をするようにしている。		台所、テーブル、調理用具なども、消毒している。つくり置きはしない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、ベンチを置きやプランターに植物を植えたりして、入りやすいように工夫している。また、玄関内にも季節の花を飾ったりして、威圧的で冷たい感じがしないように心がけている。	地域の人には、わかりにくい場所にあるので、表示など工夫したい。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	五感刺激に配慮し、耳障りな音は、なるべく立てないようにしてテレビやBGMの音量にも配慮している。光の刺激も強すぎないようにこまめに調整している。生活感があるよう、調理の音や匂いを感じてもらったり、季節感を大切にした雰囲気作りを行っている。	季節感を大切にした環境作りを、心がけたい
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の場所以外に、畳コーナーやソファーなどの家具を配置し、そのときの気分で、自由に思い思いの場所で過ごせるように配慮している。	利用者同士の関係性を考慮し、ソファーなどの配置する場所を工夫している。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時は、できるだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。本人の意向や生活スタイルに合わせて、本人が生活しやすいように家具を配置したり、その人らしく居心地のよい部屋になるよう取り組んでいる。	入居者の状況に合わせて、安全面にも考慮しながら家具を配置している。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝各部屋の掃除をするときに換気をし、その後は状況にあわせて換気をしている。温度調節は、公共部分は集中管理となっているが、各部屋は、日当たりや本人の体調などを考慮しこまめに調整している。	すだれやよしず、ブラインドなどを使い、日差しも調整している。
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	一人一人の身体機能の状態に合わせ、転倒の危険性等を考慮した家具の配置を行っている。また、段差の解消、手すりの周りに障害物を置かないようにし、歩行状態に合わせ老人車や車椅子も採り入れ自立した生活への支援を行っている。	建物内部に危険な箇所は無いが職員間で、ヒヤリハットなどを基に話し合っている。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人のわかる事わからないことを把握し、本人が混乱していることを検討し、改善できるところはしている。	部屋などには、大きく名前を書いたり、目印をして、自分の部屋がわかるようにしている。
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇、ベランダのプランターに花や野菜を植え、日常的に楽しみながら活動が出来るようにしている。玄関先にベンチを置いて、涼んだり日向ぼっこが出来よう工夫している。	玄関から段差も無く外へ出られるので、老人車を押してそのまま花壇やベンチに行けるようにしている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム防府あかり園
所在地	山口県防府市大字台道1681番地
電話番号	0835 - 33 - 0800
開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日

### 【サービスの特徴】

入居されている一人一人の方の生活習慣や生きてこられた時代の文化や価値観等を大切に、その人らしさを失う事のないようまた、人としての尊厳を保つことができるよう支援していきたいと考えています。そのため、センター方式を導入し、個々の入居者の方のアセスメントを強化しその方を知ることで、その人らしさとはなにか考えながら、入居者やご家族のニーズの把握に努め、介護計画に反映させております。ご家族に対しては、常に情報を提供し、入居後も良い関係が継続できるよう支援しております。年に数回ご家族の方にも参加していただける行事を計画したり、ケアカンファレンスに参加頂いております。同一敷地内に、関連の病院があり、入居者の健康管理に努めています。また、緊急時に備え、夜間でもすぐ医療機関に掛かれるよう連携体制を強化しています。その他、できるだけ地域の方とふれ合う機会を持つ為に、地区の行事に参加させていただいたり、買い物や行楽など、意識的に出かけるように努めています。最近では、閉鎖的にならないようボランティアの方にも協力頂き、話し相手になっていただいたり、レクリエーション活動にも幅がでてきたように思います。

### 【実施ユニットの概要】 ( 3 月 28 日現在 )

ユニットの名称	つる家			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	
	要介護 2	6	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 86.6 歳	最低 79 歳	最高 97 歳	

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	計画作成担当者を中心に、職員全員で各項目別に自己評価を行う。その後、管理者が、各項目をチェックする。特に、運営に関する事や人材育成に関する事 地域との交流に関しては、補足する。自己評価後、全員で回覧し現状の認識と今後取り組むべき課題を検討する予定。また、外部評価後に、評価委員の方の意見や助言を参考に、今後の取り組みを具体的に検討していきたい。
評価確定日	平成 年 月 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>理念を、よりわかりやすい言葉に置き換えイメージしやすくする。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>理念を具現化できるように、地域とどのように関わって行けばよいのかその方法を考え取り組む。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>理念を掲示して、意識できるようにする。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>常に、サービスの質の向上が図れるように、課題を明確にしていく。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>地域に対しては、さらに多様な機会を捉えて事業所の理念や役割を伝えていきたい。運営推進会議のメンバーもいろいろな立場の方に加わってもらえるようにする。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>近所の方が、立ち寄りやすいようホーム内で茶話会などを開いたり、一緒に過ごす機会を持つようにしたい。</p>
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域マップを活用し、地域の各機関や商店など活用できる資源を開拓していきたい。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>認知症介護講座を開催した。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		理念に沿った行動が出来るように、職員の資質の向上を図る。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		サービス評価の結果を踏まえ、改善経過のモニター役になってもらうことを検討したい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		ホームの行事などにも、参加の案内をして一緒に過ごしていただく機会を持ちたい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		今後、職員全員で制度や事業の内容を理解できるよう勉強会を行っていきたい
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		職員間で、お互いそのようなことが起こらないように、チームでサポートしあっている。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		身元引き受け人だけでなく、必要に応じて、他の家族にも説明している
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		職員間で入居者の情報交換を行い、個別のニーズに出来るだけ対応するようにしている。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		近況報告も、必要に応じ身元引き受けだけでなく、他のご家族にも発送している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		家族から、今のところ特に記録物の開示の要請はないが、契約時にいつでも要請があれば見ていただけることを説明している。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		苦情申し立て機関についても、家族に説明している。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		職員の提案や意見に基づき、勤務シフトなども検討した
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		行事の折などは、勤務者を多めにしたり柔軟に対応している
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		担当が変わる際には、引継ぎ機関を設けるようにしている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		パート職員に対する研修を強化していきたい
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		職員間で、自分の得意なことは、積極的に取り組んでもらう。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		学習会に、順次職員を派遣している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		勤務時間の中に、たとえ短時間でも仕事を離れりフレッシュできる時間を意識的につくっていききたい
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		運営者も、必要に応じて個別に職員と仕事上の悩みや家庭の状況、健康状態など面談し把握するようにしている
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		有資格者に対し、何らかの評価を検討する
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		在宅から入居される方は、家庭訪問し、生活の様子や、家族との関係を把握するようにしている。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		複数の家族の話を聞き、それぞれの家族の立場や、本人との関係性を把握する。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		様々な機関と連携し、情報収集に努める
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入居後は、家族や知人など本人にかかわりのある人に、面会に来ていただき、安心してもらえるようにしている。
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		入居者が自分の力を発揮しながら、生活の知恵や文化を継続できるようなかかわりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p><b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		家族がなかなか面会に来られない場合は、電話や手紙でやり取りしている
34	<p><b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		家族が、宿泊を希望される場合はホームに泊まって頂けるよう検討したい。
35	<p><b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		地域のなかで、本人にとって馴染みの人や場所を把握していきたい
36	<p><b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		認知症が進み、人と上手く関係がもてない人には、職員が仲介しながら、他の入居者とかかわりが持てるように支援している。
37	<p><b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		本人の状態が改善され、再入居の希望がある場合は、優先的に受け入れていきたい
垂			
38 (15)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		家族からも、いろいろ情報を得ながら、在宅で生活していたときの様子を聞き、ケアに活かしていく
39	<p><b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		センター方式を活用し、家族にも分るところは記入をお願いしている。
40	<p><b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		できないことよりできることを見つけ、アプローチするようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族と話し合いながら、その人らしく暮らしていくことが出来るよう、気づき・意見・要望を反映した介護計画を作成している。必要に応じて、職員会議の折などに、お互いの把握しているアセスメントをもとに意見交換を行いながら、ケアを検討している	職員全員が、意見やアイデアを出し、本人が心地よく暮らすことが出来るためにはどうしたらよいか話し合っている。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年に1回は、前回のプランの評価をしたうえで、定期的にケアプランの見直しを行っている。本人の状態の変化や、新たな要望や課題が発生した場合、見直しを行い、現状に即したプランを作成するようにしている	状態に即して、暫定プランを作成し、家族にも説明した上で、変更している。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に、日々の様子や気づき、プランの取り組みなど記載している。また、食事や水分の摂取状況、排泄や入浴等の状況を記録し、すべての職員が勤務開始前には目を通し情報を共有するようにしている。また、介護計画の見直しに活かすようにしている	情報を、共有するために、連絡帳を活用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療体制加算は取っていないが、24時間何かあればすぐ医療との連携がとれるようにしている。受診や通院の介助も支援している。	今後、地域の認知症の方が利用できるようなデイサービスの機能を検討する
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の様々な資源を把握し、活用できるものは活用している。ボランティアの方にも定期的に来て頂いている	さらに、多様なボランティアの導入を図り、地域交流につなげて行きたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の方の見学や、相談には随時対応している。実習生の受け入れもおこなっている。	地域の方を対象に、認知症介護講座を開催した
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理美容のサービスが受けられるように、月一回業者の方に来てもらっている。前の病院のリハビリを週2回利用している方もある。	地域の公民館などで行っている活動で、参加できるものがあれば検討したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域運営推進会議に包括支援センターの職員にも、参加を呼びかけたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		家族に、入所される前に受診していた医療機関に引き続きかかって頂いてもよい旨説明しているが、通院の事や緊急時の対応のことがあり、殆どの方が事業所の協力医療機関に替わられている
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		認知症の重度化に伴い、内科医では対応できないケースもあり、認知症に対応できる医療機関との連携を強化していきたい
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		協力医療機関とは、事業所の運営についてさらに理解を深めていただけるよう、話し合っていきたい。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		入院後も、たびたび様子を見に行き、本人の状態を確認している。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後、見取り介護が出来るよう、夜間の人員の配置や環境の整備、職員の技術や知識の向上にも取り組んでいく必要がある。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		見取り介護に取り組むには、医療機関との連携体制を見直し、医師の往診や、訪問看護ステーションの活用による看護職員の確保など検討していく必要がある。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		情報提供書を作成し、移り先に渡している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者の尊厳を損ねる事の無いよう、会議や研修の折に職員に対して意識付けを行っている。場面に応じた適切な言葉かけやかかわり方に気をつけている。また、守秘義務の徹底や、記録物の保管についても気をつけている</p>	<p>親しい関係にあっても、節度ある態度を心がける。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけ、本人の意思を尊重するために、本人にわかりやすいよう説明したり、些細な場面を捉え自己選択・自己決定の促しをしたり、言葉による意思表示の難しい入居者は、表情や態度で本人の意向を理解するようにしている</p>	<p>入居者それぞれの状態に合わせた働きかけ、言葉かけに心がける。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできることできないことを把握し、できることは本人にしてもらうようにしている。できないことも、職員の関わり方や工夫でできることは無いかが検討しながら入居者の隠れた力を引き出すよう支援している</p>	<p>職員が管理しすぎないように、本人のやりたいことを優先し、本人のやり方を尊重しながらかかわる。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>決まった日課は無く、一人一人のその日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、できるだけ柔軟に対応するようにしている</p>	<p>本人のしたいことを一緒に見つける</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装は、できるだけ自分で選んでもらうようにしており、身だしなみが整えられるようさりげなく支援している。理美容は、家族が行きつけの美容院に連れて行かれる方、月に1回の業者による散髪日を利用される方がある。髪型は本人の好みにより、自由に選択できる。</p>	<p>本人の、服や帽子などを購入する際は、本人と一緒に出かけ、本人に選んでもらう</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の献立は、入居者の好みや苦手なものを考慮して職員が立てている。調理や後片付けなど、入居者と一緒に行い、職員も同じものを食べている。野菜なども自分たちで作ったものも取り入れるようにしている。</p>	<p>本人の誕生日には、本人の食べたい物を献立にいれている。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲み物は、常時何種類か準備し、その時に飲みたいものが飲めるよう準備している。おやつも事業所から提供する物の他、自分の好きなものを購入して食べることが出来るよう支援している。お酒は、特に要求される方が無いので、行事の折などに提供している</p>	<p>糖尿病のある方も、カロリーに気をつけながらできるだけ、他の入居者と喫茶の時間を楽しんでもらっている。</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々人の排泄パターンや排泄の習慣などを把握し、できるだけトイレでの排泄を促している。失敗した場合も、自尊心を傷つけないようさりげなく周囲に気づかれないように対応している。</p>	<p>紙パンツやパットも、その人に合ったものを用意し、不快感をなくすようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	基本的に、毎日入浴できるようにしているが、時間帯が午後2時過ぎから5時ごろまでで、夜間入浴は実施していない。		安眠を促すためにも、希望者があれば夜間入浴に取り組みたい
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個々の入居者の体調や希望など考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。寝つけない時には、あたたかい飲みもの出したり、眠くなるまで話し相手になったりして過ごしてもらっている		昼間でも、横になりたいときは、ソファなどで横になれるようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活習慣や本人の能力や希望を踏まえて、入居者の楽しみや役割を作っていくように、職員がかかわりをもっている。お願いできそうな仕事をしていただいたときは、感謝の言葉を伝えるようにしている。		本年度は、お菓子づくりを取り入れ、好評であった。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣いを所持することを希望される方は、自分で小額の現金を所持してもらっており、職員も把握している。買い物の折、自分で支払う事の出来る方は職員が支払うのではなく、本人に任せて見守っている。		お金を持っていることで、安心される方もいるので小額でも継続して自己管理ができるよう支援していきたい。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調や希望に沿って、散歩や日光浴、畑の水やりや売店への買い物等戸外で過ごすことが出来るよう支援している。また、ドライブや外食などの機会もつくっている。		いつでも、出たいときに、出られる引き止めない介護を目指したい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者が、テレビや新聞などをみて、興味を持った所などでかけている。ただ、あまり遠くには出かけていない。		普段行けない所への外出は、家族にも協力を呼びかけ一緒に出かける機会を持ちたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いは、支援しながら入居者に書いていただいている。入居者の希望に応じて、いつでも電話や手紙を出せるよう、また家族から電話がががっても、家族と話が出来るようにしている。		家族から手紙が来たときは、本人が読めない場合は内容を、読んで伝えている。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が気軽に来ていただけるような雰囲気作りに心がけている。本人と会話が弾むように、職員がさりげなく間を取持つようにしている。		面会時間に関係なく、いつでも面会可能。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在は、ご家族の方からの希望は無いが、居室に宿泊していただくことは可能である。		食事や入浴の利用など含めて、宿泊していただけるよう検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	現在、納涼会や、盆踊り花火大会、昼食会など家族の方に参加を呼びかけている。		家族の方が参加しやすいように、曜日や時間帯、行事の内容等も検討していきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について内部研修を行い、職員が共通認識を持つように取り組んでいる。管理者や計画作成担当が、日常的にそのような言動が無いが注意を払っている。		出来るだけ、行動を制限しないよう、転倒の危険性がある入居者は、職員が見守りつきそう。
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	原則、夜間の戸締り以外はかけないようにしている。入居者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒について行く等の見守りを行いながら対応している。		職員の都合により制限しないで、出来るだけ本人の出たいときに出来るよう支援したい。
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、事務所に閉じこもることが無いよう、常に入居者の様子が把握できるように、記録なども同じ空間で行うようにしている。夜間は、こまめに入居者の様子を確認し、起きてこられただけで対応できるように心がけている。		日中は、職員がお互い声をかけあって、見守るようにしている。
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一律に取り除くのではなく、入居者の状況により、厳重に管理するもの、保管管理の必要なもの、使用時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		一人一人の状態を、常に把握するように努める。
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者一人一人の状態から予測される危険を検討し、介護サービス計画に取り上げ、事故防止に取り組んでいる。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共通認識を図っている。事故発生時には、報告書を作成し、事故の原因と今後の予防策について検討し、家族にも説明と報告を行っている。		ヒヤリハットや、事故の報告書を活用し、事故の再発を防ぐ。リスクマネジメントの研修を検討
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応や応急手当など、マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行われていない。現在、何かあれば協力医療機関に連絡し、支持を仰ぎ対応するようにしている。		全員が訓練できるよう、日を分けて取り組みたい。
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	些細なことであっても、事故報告書やヒヤリハット報告書にあげ職員会議で取り上げながら、事故の再発の防止に職員が意識をもって取り組むようにしている。		職員一人一人が、危険が予測できるように意識付けを行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の特養と一緒に避難訓練を行っている。入居者も、職員の誘導で実際に訓練に参加してもらっている。		地域住民や、消防署、警察署との連携を図って行きたい。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	一人一人に起こりうるリスクについて把握し、必要に応じてケアプランにも取り上げ、家族に対応策について説明している。また、経過観察しながら、対応策を検討している。		家族に面会時など折に触れ状態を報告し、リスクと対応について話している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は、定期的なバイタルチェック等により日頃の状態を把握している。少しでも体調や様子に変化が見られたときは、バイタルチェックを行い記録をとりながら経過観察し、職員間で情報を共有するようにしている。状況により受診している。		一人一人の持病やアレルギーの把握に努めている。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は、薬の処方箋をいつでも見ることが出来るようファイルを作成している。服薬時は、一人一人きちんと服用できているか確認している。薬が変処方された時は、こまめに観察し、状態変化が見られるときは、主治医に報告している。		薬の処方や用量が変更されても、誤薬がないよう、職員間で常に情報を共有している。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食物繊維の多い食材や、乳製品を取り入れている。散歩や身体を動かす機会を意識的につくりながら、できるだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。		排泄の有無、状態等の把握に努め、どうしても排便の無いときは、医師とも連携をとりながら、薬の投与を行いコントロールしている。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	入居者全員の口腔ケアを介護計画に取り上げ、本人の状況に応じて、口腔ケアを行っている。また、必要に応じて歯科受診をして歯の治療を行ったり、歯垢を取り除いてもらったり義歯の調整を行ってもらっている。		歯磨きは、全員毎食後実施。夕食後は、義歯の洗浄を行う。歯磨きの用具もや保管などもそれぞれの状態に合わせて行う。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の栄養摂取量や水分摂取量をだまかに把握し、摂取量の少ない場合は、チェック表をつけ受診の際に報告している。献立は、入居者の嗜好を把握しながら栄養バランスにも配慮している。時々栄養士のアドバイスを貰うようにしている。		飲み込みの悪い人は、食べ易いように調理を工夫している。時に捕食を補う。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	各種マニュアルを完備し、職員会議の折に勉強会を行っている。年間を通じ、手洗いやうがい、トイレ等の消毒を行い予防に努めている。また、家族に同意をいただき、入居者と職員は、インフルエンザの予防接種を受けている。		感染症が発生した場合、すぐ対応できるように必要物品を、常に準備している。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や台所の衛生管理については、職員間で取り決め実施している。食品の保存は、種類により場所を設け、虫害対策もおこなっている。調理の前には、必ず手洗いをし、清潔な手で調理をするようにしている。		台所、テーブル、調理用具なども、消毒している。つくり置きはしない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、ベンチを置きやプランターに植物を植えたりして、入りやすいように工夫している。また、玄関内にも季節の花を飾ったりして、威圧的で冷たい感じがしないように心がけている。	地域の人には、わかりにくい場所にあるので、表示など工夫したい。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	五感刺激に配慮し、耳障りな音は、なるべく立てないようにしてテレビやBGMの音量にも配慮している。光の刺激も強すぎないようにこまめに調整している。生活感があるよう、調理の音や匂いを感じてもらったり、季節感を大切にした雰囲気作りを行っている。	季節感を大切にした環境作りを、心がけたい
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の場所以外に、畳コーナーやソファーなどの家具を配置し、そのときの気分で、自由に思い思いの場所で過ごせるように配慮している。	利用者同士の関係性を考慮し、ソファーなどの配置する場所を工夫している。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時は、できるだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。本人の意向や生活スタイルに合わせて、本人が生活しやすいように家具を配置したり、その人らしく居心地のよい部屋になるよう取り組んでいる。	入居者の状況に合わせて、安全面にも考慮しながら家具を配置している。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝各部屋の掃除をするときに換気をし、その後は状況にあわせて換気をしている。温度調節は、公共部分は集中管理となっているが、各部屋は、日当たりや本人の体調などを考慮しこまめに調整している。	すだれやよしず、ブラインドなどを使い、日差しも調整している。
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	一人一人の身体機能の状態に合わせ、転倒の危険性等を考慮した家具の配置を行っている。また、段差の解消、手すりの周りに障害物を置かないようにし、歩行状態に合わせ老人車や車椅子も採り入れ自立した生活への支援を行っている。	建物内部に危険な箇所は無いが職員間で、ヒヤリハットなどを基に話し合っている。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人のわかる事わからないことを把握し、本人が混乱していることを検討し、改善できるところはしている。	部屋などには、大きく名前を書いたり、目印をして、自分の部屋がわかるようにしている。
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇、ベランダのプランターに花や野菜を植え、日常的に楽しみながら活動が出来るようにしている。玄関先にベンチを置いて、涼んだり日向ぼっこが出来よう工夫している。	玄関から段差も無く外へ出られるので、老人車を押してそのまま花壇やベンチに行けるようにしている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない